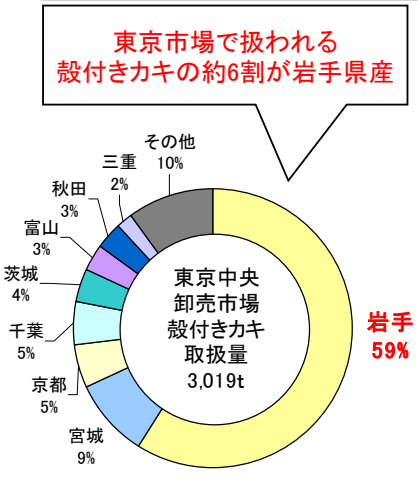
一般国道106号　都南川目道路

期待される役割

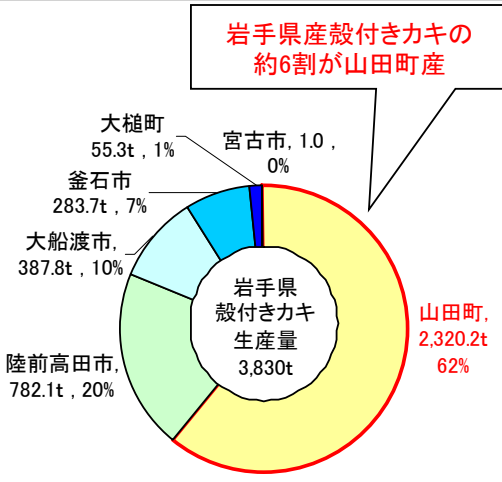
期待される役割　～県内産水産物輸送の効率化～

- 岩手県は全国でも有数の殻付きカキの産地であり、東京市場で約６割のシェア
- 岩手県山田町では、カキ生産量が県内１位（県内シェア：約６割）
- 都南川目道路を含む宮古盛岡横断道路の整備により、山田町から東京方面外の出荷において、時間短縮や定時性向上により、水産業振興に寄与することが期待される



▲東京中央卸売市場における殻付きカキの都道府県別シェア（H18）

資料：東京中央卸売市場年報



▲岩手県産カキの市町村別生産量（H17）

資料：岩手県における主な浅海増養殖（岩手県）
※135g／個として算出した概算値



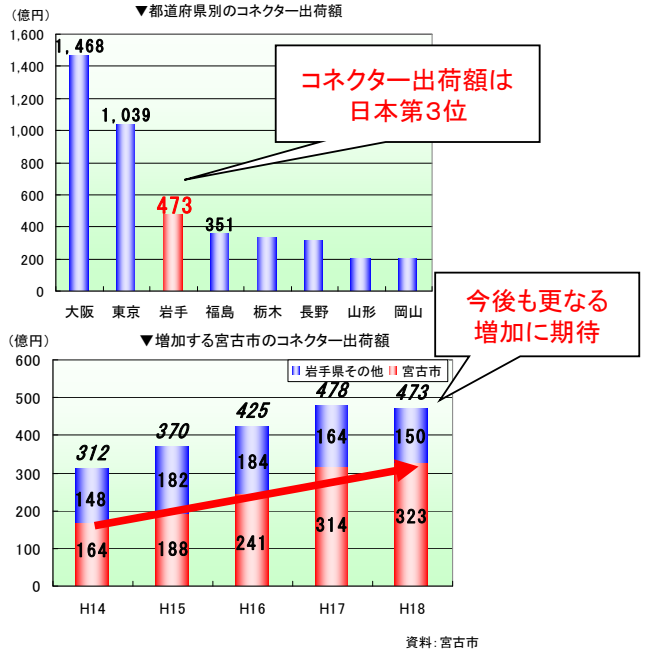
至 東京

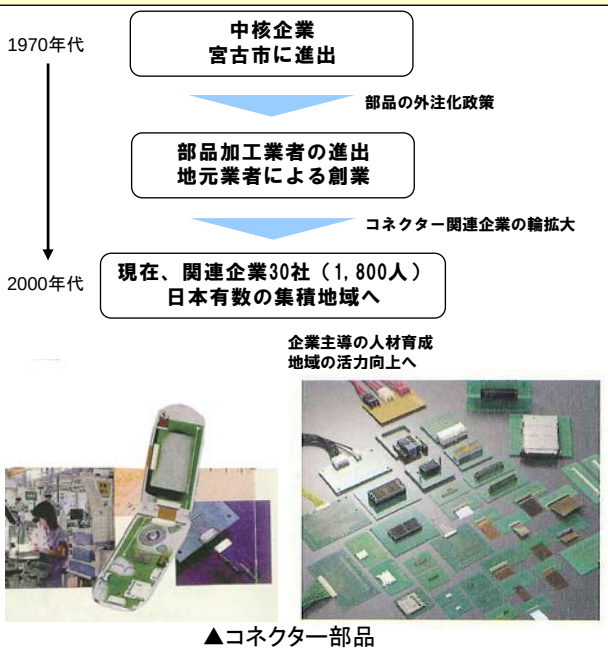
▲山田町産殻付きカキ、コネクター製品の輸送ルート

期待される役割　～世界に誇る製造品輸送の効率化～

●岩手県は、コネクター製造品出荷額が日本第３位であり、宮古市がそのうちの７割のシェアを占める。また、宮古市には精密コネクター企業が集積し、携帯電話用コネクターの世界シェアの４割を占める企業も立地している。

●都南川目道路を含む宮古盛岡横断道路の整備により、急カーブなどの隘路区間を避け年間を通して精密製品輸送の時間短縮や確実性向上により、物流コストの低減・立地企業支援が期待される





▲コネクター部品

期待される役割　～観光交流を支援～

●盛岡市や宮古市には岩手県を代表する観光地（小岩井農場、浄土ヶ浜等）がある。

●都南川目道路を含む宮古盛岡横断道路の整備により、北東北の観光の玄関口である盛岡市から沿線の観光地へのアクセス性が向上し、観光交流の促進が期待される。

●広域的な観光周遊ルートの形成により、観光振興に寄与することが期待される。

小岩井農場（雫石町）



日本最大の民間総合農場。冬には岩手雪まつり等が開催される

H19の観光客は82万人（うち県外客45万4千人）

写真：岩手河川国道事務所 HPより

中尊寺（平泉町）



昭和54年、国の特別史跡に指定。春の藤原祭りでは東下り行列が有名

H19の観光客は205万2千人（うち県外客170万6千人）

写真：岩手河川国道事務所 HPより



浄土ヶ浜



平成18年度、「日本の快水浴場百選」〔海の部特選〕に選定

H19の観光客は97万6千人（うち県外客43万3千人）

写真：三陸国道事務所 HPより

遠野盆地（遠野市）



河童や座敷童子で有名な「遠野民話」で全国的に知られている。

H19の観光客は168万8千人（うち県外客101万3千人）

写真：三陸国道事務所 HPより

期待される役割　～広域的な救急医療を支援①～

●宮古地域（宮古市、山田町、川井村）は、三次救急医療施設へのアクセス時間が60分圏外。
●都南川目道路を含む宮古盛岡横断道路の整備により、川井村が60分圏内に入る。
●近年、多くの医療施設を有する盛岡市内への救急搬送件数が増加しており、宮古地域～盛岡間における救急医療アクセス時間の短縮による救命率向上が期待される。

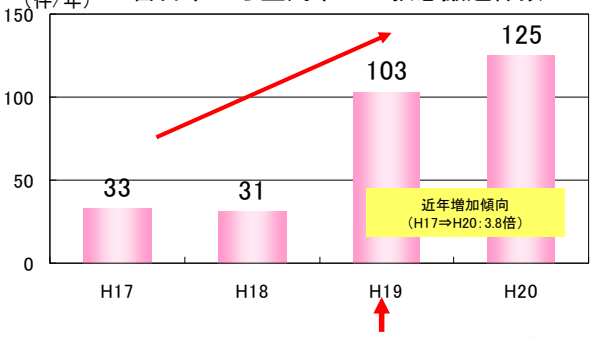
○三次救急医療施設は
岩手県内3施設
・岩手医大附属病院
（岩手県高度救命救急センター）
・県立大船渡病院
（救命救急センター）
・県立久慈病院
（救命救急センター）

○小児救急医療施設は
盛岡市内の4施設のみ
・岩手医大附属病院
・県立中央病院
・盛岡赤十字病院
・もりおかこども病院



▲三次医療施設60分アクセス圏域

▼宮古市から盛岡市への救急搬送件数



H19.7月から循環器科の常勤医が不在
（県立宮古病院）

▼道路行政についての意見提案（宮古市長）

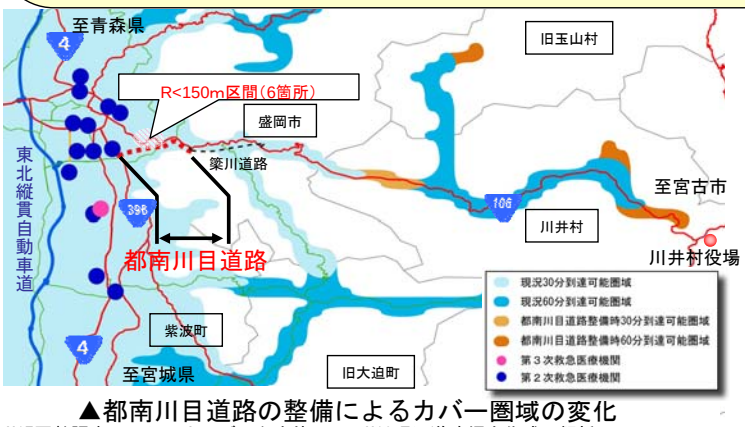
・二次救急医療機関の**医師不足が進行**するとともに、**盛岡市内の三次救急医療施設への搬送に約2時間**を要する状況
・宮古～盛岡間など搬送時間を短縮するための**「命の道路」の整備が必要**

資料：道路の中期計画（案）に係る市町村長等ヒアリング（H20.10）

期待される役割　～広域的な救急医療を支援②～

●盛岡市の三次救急医療施設からの60分圏域人口は川井村約9百人（カバー率29%）で、都南川目道路の整備により約12百人（カバー率34.6%）と約3百人増加する。

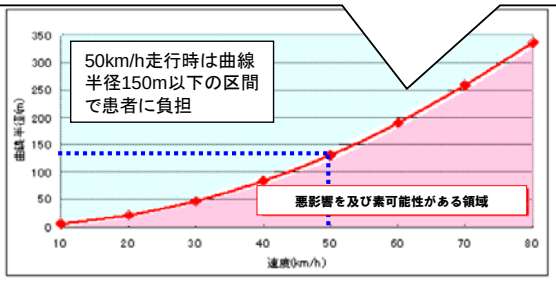
●また、最近の研究では半径150m以下の区間や急勾配区間が搬送患者の容態に悪影響を及ぼす可能性が指摘されており、現106号区間の急カーブ区間を回避することで安静搬送に貢献する。



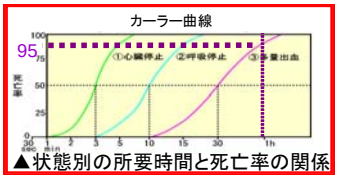
▲都南川目道路の整備によるカバー圏域の変化

※H17国勢調査メッシュ人口データを使用し、H19現況道路網を作成し解析
※岩手医科大附属病院は移転後を想定
※第三次医療機関または第二次医療施設からの時間圏域を解析
※現状はH19現況道路網
※整備後は都南川目道路、築川道路を追加
※速度は救急車の走行を想定し規制速度を使用（都南川目道路70km/h）

・カーブ区間において、血圧変動が10mmHgを超えると患者の安静度に影響を与える可能性がある。
・速度、曲線半径の関係から、曲線半径が小さく速度が高い場合は、安静度に影響を与える（10mmHgを超える）可能性がある。



▲地域医療を支援する道路整備の在り方研究会報告書より



▲状態別の所要時間と死亡率の関係

期待される役割　～広域的な救急医療を支援③～

- 宮古地域は医師不足の深刻化（循環器科、心臓血管外科、小児科等常勤医不在）や、周産期医療体制が整っていないため、医療環境の整っている盛岡地域との結びつきが強い。
- 県立中央病院から県立宮古病院へ年間175件の応援を実施。
- 都南川目道路を含む宮古盛岡横断道路の整備により、広域医療の支援が期待される。

▼県立病院の常勤医師不在科

		常勤医不在科				
圏域基幹病院	大船渡	呼吸器科	神経内科	皮膚科	耳鼻いんこう科	放射線科
	宮古	循環器科	精神科	心臓血管外科	皮膚科	眼科
	胆沢	神経内科	精神科	産婦人科		
	久慈	耳鼻いんこう科	麻酔科			
	磐井	心療内科	眼科	耳鼻いんこう科		
	二戸	呼吸器科	皮膚科	耳鼻いんこう科		
	釜石	神経内科	形成外科	眼科	耳鼻いんこう科	
	中部	心療内科	糖尿病・代謝内科	精神科	耳鼻いんこう科	麻酔科
地域病院	一戸	皮膚科	眼科	歯科		
	遠野	皮膚科	産婦人科	眼科		
	江刺	小児科	皮膚科	産婦人科	眼科	麻酔科
	千厩	循環器科	神経内科	皮膚科	耳鼻いんこう科	
	高田	耳鼻いんこう科				
	山田	内科	小児科	眼科		
	大槌	外科	整形外科	皮膚科	産婦人科	眼科
	大東	外科				
	沼宮内	整形外科				

循環器科、心臓血管外科、小児科などの常勤医が不在（盛岡市への救急搬送もこれらの疾患患者が多い）

宮古二次保健医療圏には周産期医療体制が整っていない



▲周産期医療の現況

岩手県公立病院改革推進指針
岩手県保健福祉部（H21.3）より

県立中央病院から県立宮古病院へ175件/年の応援を実施

応援要請病院	2007要請件数
県立釜石	227
県立宮古	175
県立遠野	109
県立軽米	52
県立大船渡	32
県立高田	4
済生会岩泉病院	1

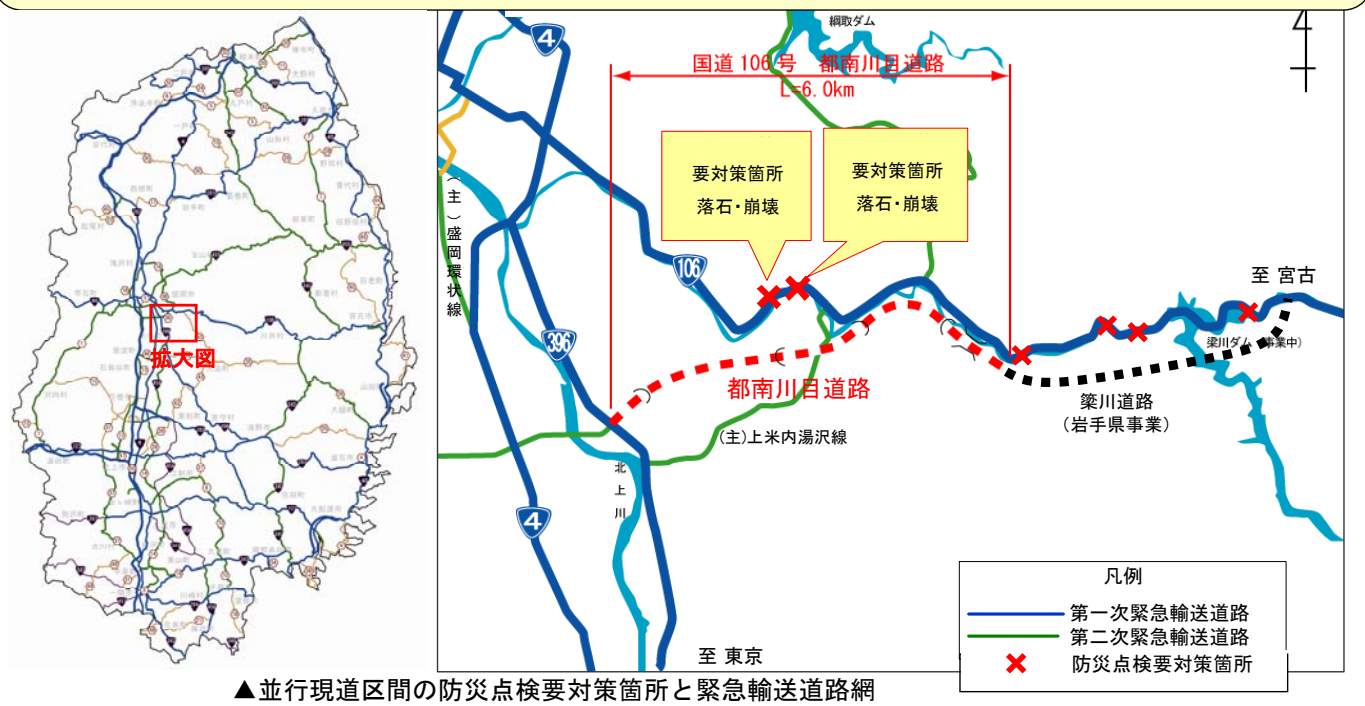
▲沿岸地域の応援要請回数

都南川目道路についての意見（抜粋）

・都南川目道路周辺には救急医療機関が集中しているが渋滞などもあり1分1秒を争う救急医療において、この道路は重要な路線（盛岡市長）

期待される役割　～緊急輸送道路の信頼性向上①～

- 国道106号は岩手県緊急輸送道路網における一次路線に指定
- 並行現道区間にはH19道路防災点検において要対策箇所が2箇所存在するが、都南川目道路の整備により迂回ルートが確保される



▲並行現道区間の防災点検要対策箇所と緊急輸送道路網

資料：いわての道（岩手県H18.3）、H19道路防災点検

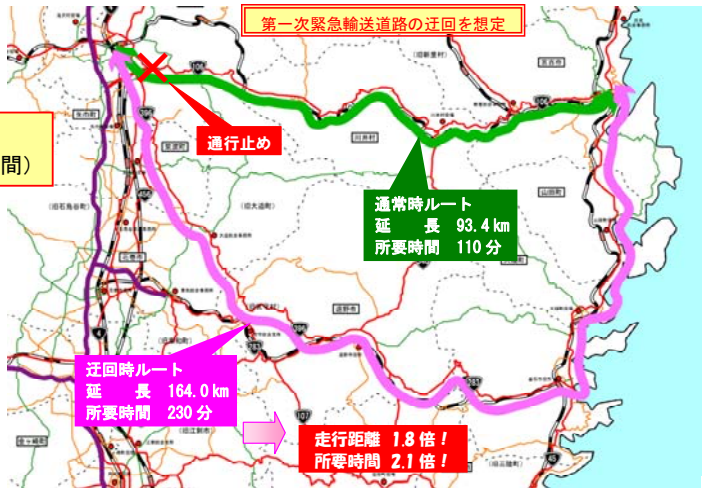
期待される役割　～緊急輸送道路の信頼性向上②～

●並行現道区間では過去20年間で7回、災害による通行止めが発生
●大型車の迂回路は所要時間が2.1倍に増加
●都南川目道路の整備により、複線ルートが確保され信頼性向上が図られる



▼並行区間の通行止め実績

年度	箇所名	規制開始	規制解除	全止め時間	通行止め理由
2	川目	9月20日	9月21日	24:00	冠水
10	川目宇曽沢	8月29日	8月29日	1:00	土砂崩落
13	川目				雪
14	川目	7月11日	7月11日		土砂崩落
16	川目地内	8月10日	8月10日	2:30	倒木
17	川目	12月26日	12月26日	2:37	倒木
19	川目	9月17日	9月18日	13:00	土砂流出



▲通常時と迂回時の所要時間の比較

※H17センサスのピーク時旅行速度より算出

地域の動向・意見

○H21. 4. 3　盛岡市長、宮古市長、川井村長の連名で、国会議員、国土交通大臣、東北地方整備局道路部長あて、地域高規格道路宮古盛岡横断道路　国道106号「都南川目道路」の整備促進に関する緊急要望を提出。現在、**沿岸部の公立病院では、医師不足が進み「循環器系の医療ができず盛岡市の医療機関に頼らざるを得ない状況」**にある。

○H21. 4. 7　岩手県知事より、費用便益比（B/C）の点検結果に関する回答において、国道106号都南川目道路及び直轄道路事業の整備促進、道路事業の総合的な評価の実施についての意見提出。**都南川目道路は、宮古盛岡横断道路の一部を構成する道路で東北縦貫自動車道へのアクセスの向上や、安全で円滑な交通の確保を図るため、極めて重要。**
県としても関連する簗川道路の整備を鋭意進めてきており、都南川目道路については、一層のコスト縮減に努め、事業を見合わせることなく引き続き整備促進を図ること。

○H21. 5.19　国道106号地域高規格道路整備促進期成同盟会（会長：宮古市長）にて、都南川目道路の事業継続を求める緊急決議案を決議。
救急医療施設への搬送や緊急災害時の支援など宮古市と盛岡市をつなぐ一時も寸断することのできない重要道路である。

○H21. 6.10　岩手県知事より、国土交通事務次官、道路局長あて、都南川目道路の速やかな事業執行再開を要望。**救急医療施設への患者搬送時間の短縮を図る「命を守る道路」として極めて重要。**

地域の動向・意見

○H21. 6. 9　盛岡市議会にて、都南川目道路の整備促進に関する意見書を可決。
広大な面積を有する岩手県では、沿岸部の医師不足が進み県都盛岡市の医療機関に頼らなければならない状況。このような問題に対応するためにも、この道路の早期整備は欠かせないものとなっている。事業凍結解除と早期完成を図られるよう強く要望する。

○H21. 6.12　宮古市議会にて、都南川目道路の整備促進に関する意見書を可決。
宮古・盛岡地域における道路整備は、救急医療、防災、安全・安心の確保など経済効果だけでは判断できない様々な要因が大きく、「災害に強い道路」・「命を守る道路」の整備は、地域住民の悲願である。事業凍結解除と早期の完成を図るよう強く要望する。

○H21. 6.19　川井村議会にて、都南川目道路の整備促進に関する意見書を可決。
国道106号は、宮古市から川井村を経由し、県都盛岡市を結ぶ横軸の大動脈として、交流や観光等に大きな役割を担う主要な幹線道路である。「災害に強い道路」・「命を守る道路」の整備は、地域住民の悲願である。事業凍結解除と早期の完成を図るよう強く要望する。

地方公共団体の意見

平成21年6月3日に開催した意見聴取会で、自治体より頂いたご意見

盛岡市長　谷藤裕明 氏

「都南川目道路は、救急患者を宮古市や川井村から盛岡に搬送する際に使われる命の道だ。1分1秒を争う救急医療において、この道路は重要である。1日でも早い、事業凍結解除、早期完成を地域住民は期待している」
「残存集落では地域活性化のため岩手大学と連携しグリーンツーリズムなどのメニュー開発を行っている。その前提として都南川目道路、簗川道路のネットワーク整備が挙げられている。」

川井村長　内舘勝則 氏

「川井村は94%が森林資源で、それにより収入を得ている。現在は地場産業として（売り上げ）日本一の集成材加工場があり、運搬時間短縮に伴う物流コスト削減は大きい。また、本村には日本で唯一の森林博物館があり、それを活用し山村にしか出来ないメニューで交流人口の増加を目指している。山村を維持するための経済的な位置づけとして、地場産業の育成と交流人口増加のために必要な道路である。」

地方公共団体の意見

平成21年6月3日に開催した意見聴取会で、自治体より頂いたご意見

宮古市副市長　山口公正 氏

「年間100回以上県立宮古病院から盛岡の病院へ救急搬送しており、3日に1回、多い日は1日2回、医師が同伴し4時間も拘束されている。救急車も同様に拘束されており、時間短縮が望まれる。106号は命の道路であり、今回の凍結を一刻も早く解除してほしい。沿線住民の願いである。
また、川井村との合併により陸中海岸国立公園と早池峰国定公園の2つを有する市となり、海と山の観光を連携させた新しい観光を模索しているところである。」

岩手県県土整備部

「直轄事業の都南川目道路、県事業の簗川道路は岩手県の中期計画である「いわて希望創造プラン」に位置づけられている。都南川目道路が中止、遅延などとなった場合、県内の幹線道路ネットワーク形成に大きく影響する。」